

臨時国会で改憲議論・改憲発議を許さず、「安倍9条改憲」に終止符を！

すべての職場・地域から「憲法を守り生かそう」の声を上げ、さらに共同を広げよう

「安倍改憲」をめぐる激しいせめぎ合いの秋です

臨時国会が始まり、「安倍9条改憲」をめぐる情勢は新たな局面を迎えています。改憲勢力は、「安倍首相の任期中の改憲」(2021年秋までの改憲)をめざして、何としても今国会で改憲原案を提示し、改憲議論を進めようとしています。「改憲シフト内閣」による本気の改憲策動です。一方、2017年5月3日の「安倍改憲」発言から2年半、私たちの運動は「安倍改憲」を押しとどめてきました。そして、7月の参議院選挙においては、改憲勢力に「発議に必要な3分の2の議席維持」を許しませんでした。

「安倍改憲」を許すのか、それとも「安倍改憲」を断念させるのか、激しいせめぎ合いの秋です。すべての職場・地域から、「9条変えるな」「憲法を守り生かそう」と声を上げ、行動しましょう。

「改憲よりも暮らしを守れ」の声を大きく

臨時国会は課題山積です。消費税増税は、最低賃金引き上げ分を吹き飛ばし、暮らし・営業・日本経済を土台から壊そうとしています。さらに、一方的に日本が譲歩した「日米貿易協定」、深刻化する日韓問題、「敵地攻撃型」の過去最高の軍事費、台風15号停電被害で問われるエネルギー政策、その一方で「原発マネー」、愛知トリエンナーレ展への補助金不交付問題など、どれも、国の根幹を揺るがし、違憲性が問われる大問題です。加えて、森友・加計問題、統計不正問題、年金「2000万円」問題、辺野古新基地建設問題など、深刻な課題が積み残されています。

ところが、安倍政権は課題解決を放棄して、国民の痛みに向き合おうともせず、「改憲」にひた走っています。しかし、どの世論調査を見ても「安倍改憲には反対」が多数です。国民は改憲を望んでいません。また、憲法を守らない首相に改憲を語る資格はありません。私たちは、「憲法を変えるのではなく、憲法が生きる政治」「改憲よりも暮らし第一の政治」を求め、運動を展開します。

市民と野党の共同・3000万人署名が安倍政権を追い込んでいます

参議院選挙で、「憲法改正」を公約に掲げた自民党は9議席減らし単独過半数を割り込み、改憲派は3分の2を維持できませんでした。この結果を生み出した力は、市民と野党の共同です。

市民連合と立憲野党は、「安倍9条改憲反対」「安保法制廃止」「最低賃金1500円」など13項目の「共通政策」で合意し、32の1人区すべてで共闘し、10選挙区で勝利しました。「野党の共闘で安倍政治に代わる政治を実現できる」と希望が示されました。今、さらに「野党連合政権」を求める声が上がっています。

このように野党共闘を発展させた原動力は、全国の職場・地域で展開された3000万人署名運動です。署名を真ん中に対話がすすめられ、「安倍改憲反対」「9条守れ」の世論を広げました。国会に提出された1000万近い署名が、立憲野党を励まし、野党の頑張りが憲法審査会を開かせない力となり、安倍改憲を押しとどめてきたのです。

全組合員参加で、憲法を力に、憲法を守り実現する運動を

私たちの運動が確実に安倍政権を追い込んでいることに確信をもち、3000万人署名をさらに推進しましょう。職場・地域、草の根から、「安倍9条改憲」の危険性を訴える宣伝と対話を、全組合員の参加で広げましょう。共同をさらに広げ、安倍政治に終止符を打ち、「安倍改憲」を断念させましょう。

平和であってこそ、暮らしも労働も守られます。「人間らしく生き働きたい」「いい仕事がしたい」という願いを束ねて、憲法を力に、憲法を守り実現する行動に立ち上がりましょう。

「声を上げる」「あきらめない」「一致点で共同を広げる」全労連運動の出番です。以下の取り組みをすすめてみましょう。

- (1) 憲法学習を力にして、署名運動を軸に対話を広げ、改憲を許さない圧倒的世論を構築しよう。
3000万人署名を手に、職場で地域で直ちに行動を始めよう。署名目標を再度確認し、やりきろう。
「オール職場総当たり」行動、地域ローラー作戦、スタンディング、「9の日行動」など宣伝行動を展開しよう。
- (2) 「改憲議論・改憲発議を許さない」行動を、中央・地方で「目に見える行動」として成功させよう。
「安倍改憲許すな! 11・3憲法集会」(仮称)・「19日行動」を全国各地で成功させよう。
・11月3日(祝)14:00～国会正門前(南庭側) 首都圏組織は1万人規模で成功させよう。
- (3) 大軍拡予算反対、辺野古新基地建設反対、日米地位協定の抜本改定、核兵器廃絶、「表現の自由」を守る取り組みなど、憲法を生かして、平和と民主主義を実現する取り組みをすすめてよう。

以上